

コスト削減に大きく寄与し、会社の成長を後押しする「経費精算のーT化」

ラクス

企業としてコスト削減は常に意識すべき課題だが、中でも経費精算業務に着目する企業が増加している。経費精算業務をーT化し、コスト削減を実現する方法を、ラクス代表取締役の中村崇則氏に聞いた。

交通費の精算に代表される経費精算業務に費やす人件費は、従業員数100人当たり、年間500万円以上にも上ることをご存知だろうか。

経費精算業務では単純作業が膨大に発生しているが、その手間や時間は、企業の利益に直接結びつくものとは言い難い。

この点に着目し、人件費削減と、成長加速につながる改革の一つとして注目されているのが経費精算業務のーT化である。「背景には『ムダな業務時間を減らして効率を上げ、その分、戦略を考えたり、本来やるべき仕事に費やしたい』といった狙いがあるようです」

こう語るのは、中堅・中小企業など法人向けに、業務効率化支援の、さまざまなクラウドサービスを提供するラクスの中村

崇則・代表取締役だ。

実際、営業担当者などが経費精算に費やす時間は意外に多い。紙や表計算ソフトで交通費を精算する場合、運賃をネットなどで一件ずつ調べ、所定の書式に転記して上司に申請するのが一般的。経費精算だけで1カ月に1時間ほどの時間を取られることも少なくない。

「上司は営業担当者の申請内容を確認・承認して経理に回し、経理スタッフは申請内容に誤りがないか、定期の区間が控除されているかなどをチェックし、仕訳、会計ソフトへの入力などを手作業で行わなければなりません。会社全体で見ると、驚くほど無駄な時間が生じ、その分、人件費に跳ね返ってきます」
実は中村氏も、そうしたムダに頭を悩ませていた経営者の一

人だった。従業員100名の時点で経費精算業務にかかったコストは人件費換算で年間575万円。ラクスにとって、予想外に大きな費用がかかっていた。

経費精算業務のーT化でコストは7割強も削減

そこで中村氏は、経費精算業務のーT化を決意する。そして試行錯誤の末に開発したのが、現在ラクスがクラウドサービスとして提供している経費精算システム『楽楽精算』だ。

『楽楽精算』の特長は、従来多くの時間と手作業を要していた経費精算業務が、ーTによって大幅に省力化できる点にある。「社員が交通費を申請する際には、『楽楽精算』に内蔵された乗換案内ソフトで経路を選択するだけで運賃が自動入力されます。またSuicaやPASMOなどのICカードの利用履歴を読み込む機能もあるので、交通費の申請にかかっていた時間を大幅に短縮できます」

スマートフォンからの操作も

可能なため、出先からでも経費の申請や承認ができる。外出や出張が多い上司でも、スマホやモバイル端末を持ち歩けば、承認が滞ることはない。

かくして、社員や上司が単純作業に縛られることなく、営業や現場回りにより多くの時間を割けるようになるわけだ。『楽楽精算』を利用すれば、経理スタッフの業務負担も大幅に軽減されます。定期区間の控除や仕訳、会計ソフトへの手入力といった作業がすべて自動化されるからです」と中村氏。

ラクスでは、社員（申請者）、上司（承認者）、経理スタッフそれぞれの業務負担が軽減された結果、年間575万円がかかっ

ラクス 代表取締役社長 中村崇則

1973年、山口県生まれ。神戸大学経営学部経営学科を卒業後、日本電信電話（NTT）入社。NTT在籍中、無料メールングリストサービスを展開する会社を設立。2000年、ITエンジニアを育成する会社を設立し、10年、同社を株式会社ラクスに社名変更。

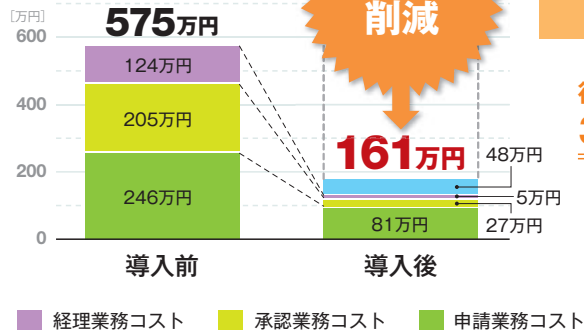


コスト削減、効率化、成長加速の「トリプル効果」を発揮

コスト削減、効率化、本業集中で、
企業成長が加速される

- 社員（申請者）** → 経費申請作業の手間が大幅に減り、営業などの業務に集中できる
- 上司（承認者）** → 経費のチェック、承認作業が軽減され、自らの仕事に集中できる
- 経理スタッフ** → 経理作業が効率化され、財務戦略などの立案に時間を避ける

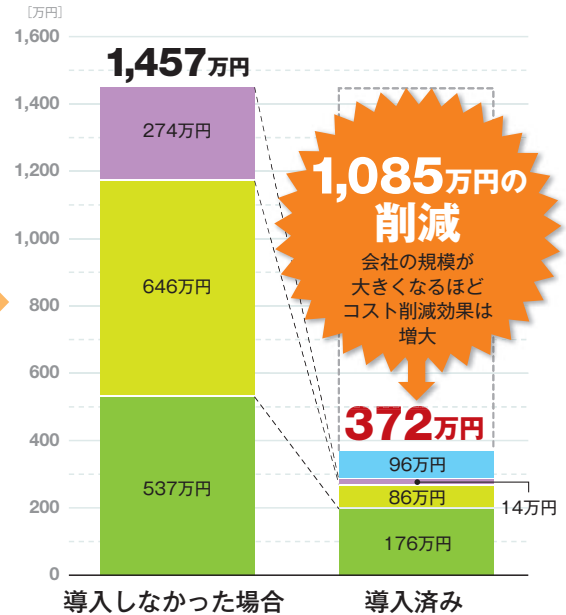
従業員 100名



会社の成長

従業員数
3倍に

従業員 300名



*業務コストは、人件費換算。ラクスでの実際の社員数増加に伴うコスト変化を基に試算。

社員、上司、経理スタッフが喜ぶ「社内3方よし」

- 社員（申請者）**
 - 経路を打ち込めば、乗換案内ソフトにより、自動的に交通費が算出される
 - 交通系ICカードの利用履歴を読み込むことが可能
- 上司（承認者）**
 - 出先からでも承認でき、承認が滞らない
 - 外出先でも、スマートフォンから承認が可能
- 経理スタッフ**
 - 自動仕訳や会計ソフトに取り込み可能なCSVデータが生成でき、会計ソフトへの手入力が必要なくなる
 - 振込データ作成機能があり、社員や取引先への振込作業が短縮・効率化される

従業員数が多いほど
コスト削減効果は顕著に

その後、会社の成長とともに社員数は3倍の300人に増えたが、経費精算業務コストは372万円にとどまっている。仮に『楽楽精算』を導入しない場合にかかったであろうコストは年間1,457万円。それが約4分の1に圧縮され、1,085万円の削減効果が出ている。「経費精算のムダは所要時間と人数の掛け算ですから、社員数

ていた経費精算業務コストが161万円に、実に7割以上のものコスト削減に成功した。

09年に発売を開始した『楽楽精算』の導入社数はいまや約500社に達し、利用者数は5万人以上に上る。

「もともと社員数300〜3000人規模の中小企業向けにリリースしたサービスですが、先ほども述べたようにスケールメリットがあることから、1000人以上の企業にもご利用いただいています」

導入企業の業種も、事業規模もさまざま。月額3万円から利用でき、初期費用も10万円と、低コストで導入できる点も好評だという。

ユーザーからは、「5名で行っていた業務を2名に削減できた」などのコスト削減効果はもちろんだが、「面倒な業務が減り、本来やるべき仕事、質の高い業務に、より多くのマンパワーを割けるようになった」などの反響があり、導入した企業の満足度は高い。

中村氏は「単純作業からは何の付加価値も生まれません。社員が苦痛な作業から解放され、本業により集中できるようになれば、企業の成長も加速されるのではないだろうか」と話す。